

第1章 計画の概要

1 計画の目的

盛岡広域スポーツコミッション（以下「コミッション」という。）は、希望郷いわて国体・いわて大会の盛岡広域首長懇談会・国体部会が発展的に解消し、平成29年3月に設立された。平成29年度から令和4年度の6年間の第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（以下「第一次計画」という。）及び令和5年度から令和7年度の第二次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（以下「第二次計画」という。）では、コミッションは盛岡広域圏（以下「広域圏」という）に属する盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町の各市町（以下「各市町」という。）の取組が効果的・効率的に推進されるよう連携・支援を行ってきた。これまでの取組を振り返り、コミッションだからこそ実現できた数々の事業の実績を踏まえ、広域圏のさらなる魅力の発信と賑わいの創出を図るため、第三次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（以下「第三次計画」という。）を策定するものである。

2 計画の位置づけ

広域圏におけるスポーツツーリズムの推進及びスポーツ施設の利用促進への取組は、広域圏の連携中枢都市圏構想である「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」の具体的施策に位置付けられており、取組により広域圏のスポーツ資源をつなぐことで、人やモノの流れの活性化や住民のスポーツ活動機会の充実につながるものである。

また、スポーツツーリズムを効果的かつ効率的に推進するため、コミッションが中心となって取り組むこととするが、いうまでもなく各市町が単独で取り組むスポーツツーリズム施策を妨げるものではない。

なお、本計画においては、国が進める外国人観光客誘致を中心とした“スポーツツーリズム”の枠を越えて、スポーツツーリズムを広義に捉え、スポーツを通じた賑わいの創出や地域振興に結びつく取組全般と定義する。

3 計画期間

第3期みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの計画終期に合わせ、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とする。

第2章 現状と課題

スポーツの力が 盛岡広域圏の未来を創る

盛岡広域圏のさらなる魅力の発信と賑わいの創出

盛岡広域スポーツコミッションの取組

スポーツによる交流人口
の拡大

- ・全国大会等の大規模大会・合宿の誘致
- ・構成団体が行うイベントへの支援
- ・スポーツパル制度の拡充

地域スポーツの魅力向上

- ・各種媒体を活用した効果的な情報発信
- ・プロスポーツとの連携・支援
- ・トップアスリートへの応援
(エイト・オリンピックズ・プロジェクト)

広域的なスポーツツーリ
ズム推進

- ・広域的スポーツ施設整備の促進
- ・スポーツツーリズム商品開発に関する調査・研究
- ・スポーツツーリズム推進にかかる調査・研究

▲第二次計画の基本方針実現に向けた仕組み（イメージ）

1 前計画基本的施策における取組の成果と課題

(1) スポーツによる交流人口の拡大

ア 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致

■成果

- ・きたぎんボールパークの管理運営会社である盛岡南ボールパーク(株)の構成企業のフクシ・エンタープライズ(株)が令和4年度にコミッションの監修のもと製作した「盛岡広域野球場ガイド」を用いて営業活動を行った結果、令和5年度から「いわて盛岡サマーベースボールリーグ」¹が実現した。8月上旬に開催される本交流戦を目的として、周辺球場を練習場所とした合宿が行われるようになった。
- ・広域共通のインセンティブの検討は、各市町から主たるイベントや合宿施設等について情報収集したところ、合宿で来てもらっても宿泊施設がない等、自治体によって状況が異なるため、広域共通のインセンティブを実施するのではなく、それぞれの市町の良さを状況に応じて組み合わせてPRすることが有効との結論に至った。
- ・令和6年5月に「クライミングユース日本選手権」をONODERASIGN Climbing Base（岩手県営スポーツクライミング競技場）で開催した。

¹ 岩手県、東北地区、関東地区の大学及び社会人野球のチームによる交流戦。

	目標値 (令和7年度)	R5	R6
大会・合宿誘致の件数	149 件	141 件	212 件

※みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業から

■課題

- ・ 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）から提供された情報の収集や、いわてスポーツコミッションが主催する合宿相談会に参加し、広域圏の施設や補助制度を PR したが、どの団体が実際に盛岡広域に合宿に訪れたのか、実績がつかめていないのが課題である。今後は、合宿補助を活用した団体にニーズや感想、合宿地に広域圏を選んだきっかけ等についてアンケートを取り、データを収集し、誘致につなげていく必要がある。

イ 構成団体が行うイベントへの支援

■成果

- ・ 各市町の特産品を1品ずつ集め、8品1セットとし、広域圏で行われるイベントで副賞として提供することによって特産品を PR する事業は好評である。大会開催地以外の特産品も PR することができるため、事業効果も高い。

	目標値 (令和7年度)	R5	R6
特産品提供イベント数	12 件	15 件	22 件

■課題

- ・ コミッション設立時から同じ単価で設定しているが、物価高騰の影響もあり、単価に合わせて内容を減数しているものもあるため、単価の見直しなど検討が必要である。

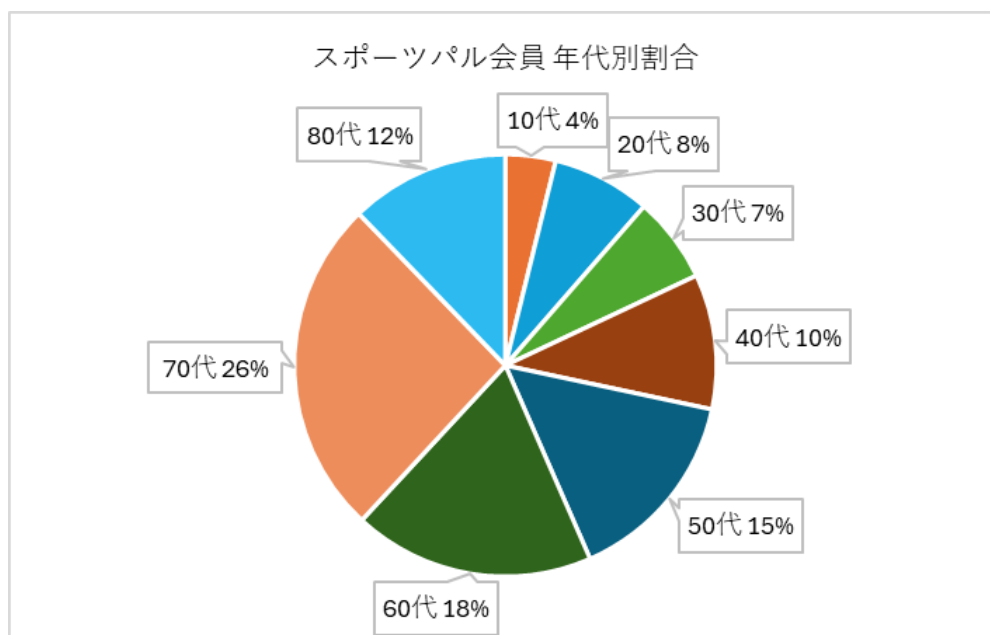
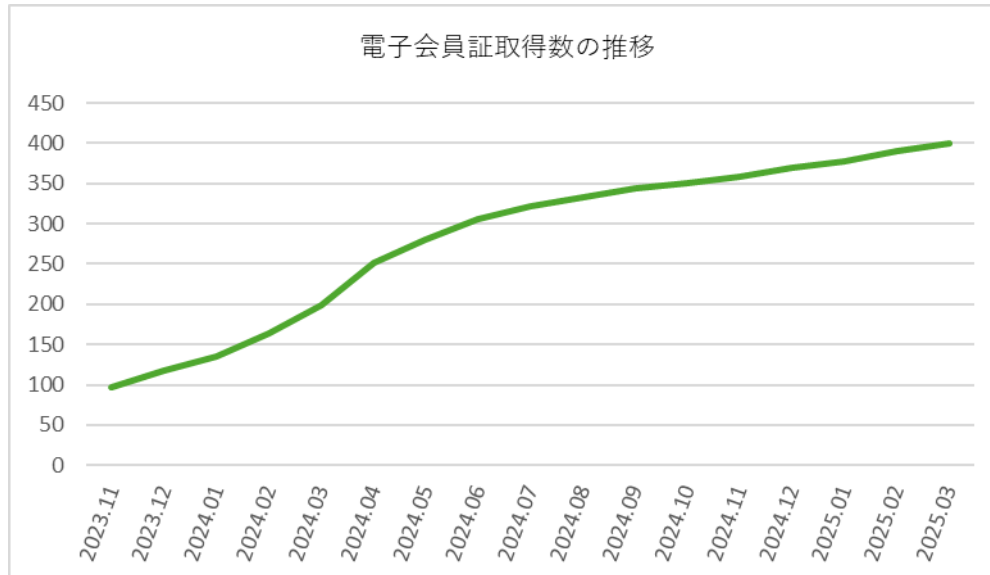
ウ スポーツパル制度の拡充

■成果

- ・ スポーツパル²制度は、10,000 人の目標に対して 3,553 名の登録（令和7年6月1日時点）であり、達成率は約 35%であった。
- ・ 令和5年度から LINE のショップカード（以下「電子会員証」という。）を活用したポイントの付与を開始。
- ・ 従前の盛岡広域圏の公共スポーツ施設（指定管理施設を含む）のほか、令和5年4月に「きたぎんボールパーク」、令和6年6月に「岩手県営屋内温水プール（ホットスイム）」、令和7年4月に「ワイズマンスポーツベース紫波」をスポーツパル対象施設へ追加。

² 盛岡広域で取り組んでいる、スポーツに親しみ、スポーツを支える住民のネットワークをつくり、地域住民がスポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進するための取組。

	目標値 (令和7年度)	R5	R6
対象施設数	42 施設	43 施設	44 施設
スポーツパル会員数※	10,000 人	3,268 人	3,502 人
スポーツパル交流会参加者数	20 人	15 人	30 人



■課題

- ・ 電子会員証の利用者も徐々に増えているため、いずれは電子会員証への1本化を視野に入れる。しかし、スポーツパル会員の年齢層は、高齢者が約6割を占めており、紙会員証を利用している会員も多数いる。そのため、どの時点で電子会員証へ完全移行するかは検討が必要である。
- ・ 対象施設については、今回初めて県営施設（ホッตスィム）を追加することができたが、更なる県営施設の追加を検討していく。

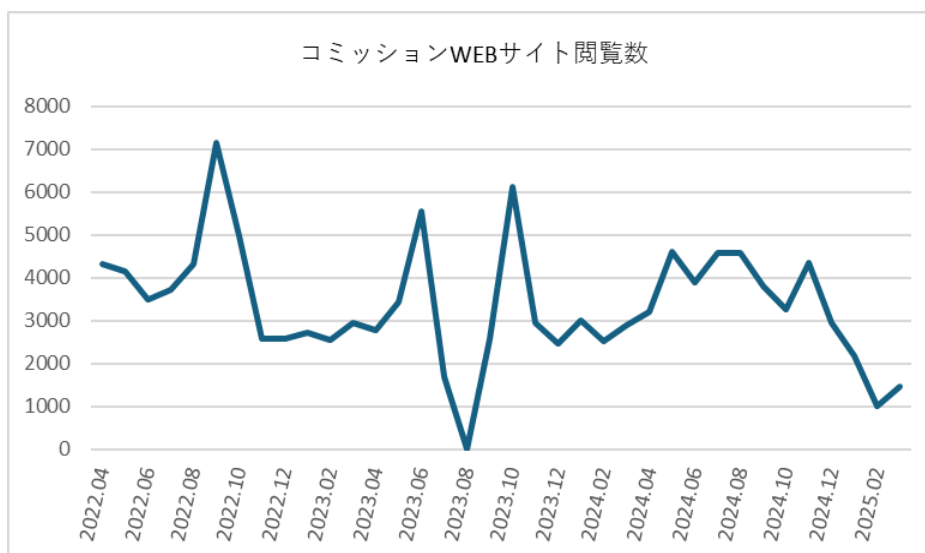
(2) 地域スポーツの魅力向上

ア 各種媒体を活用した効果的な情報発信

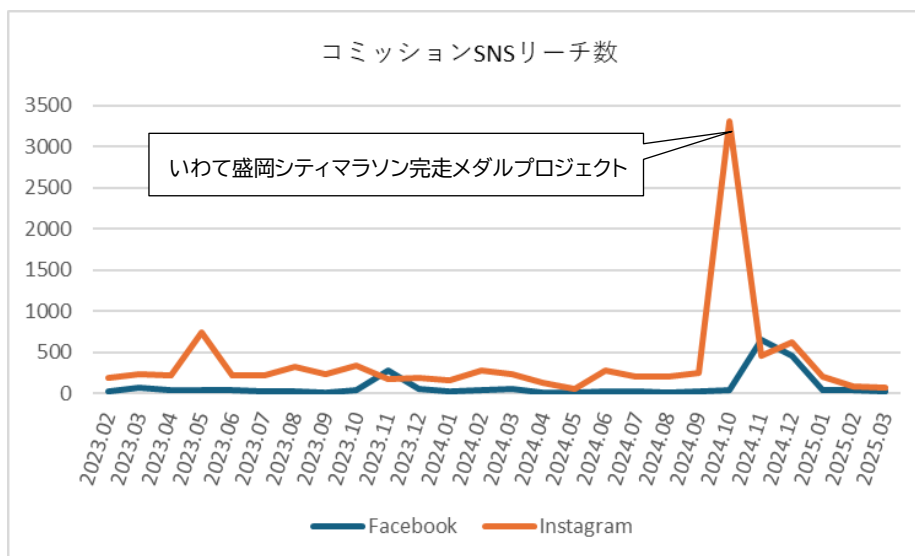
■成果

- ・ コミッション WEB サイトを通じた情報発信は、各市町単独での取組を補完し、コミッションがハブとなって広く発信を行うことができた。
- ・ WEB サイトに加えて SNS（Instagram、Facebook）を活用し、より多くの人の目に触れる情報発信が可能となった。
- ・ 情報発信に関するコミッション研修会を実施し、好評であった。

フォロワー数	目標値 (令和7年度)	R5	R6
Instagram	10,000 人	24	27
Facebook		165	255



※2023年8月はWEBサイトのサーバー移行により集計できず。



■課題

- ・ 情報発信については、更新頻度やコンテンツが不足する時期にどのような発信を行うかの検討が必要である。

イ プロスポーツとの連携・支援

■成果

- ・ 岩手ビッグブルズやいわてグルージャ盛岡のホームゲームの運営ボランティア募集に協力できた。

	目標値 (令和7年度)	R5	R6
イベントボランティア参加数	100 人	26 人	51 人
うち岩手ビッグブルズ	—	20 人	37 人
うちいわてグルージャ盛岡	—	6 人	14 人

■課題

- ・ SNS を活用し、ボランティア募集について発信することで、新規（若者）のボランティア獲得が見込める可能性がある。
- ・ ボランティアについては、県でも取り組んでいるため、事業の充実化を図るため、連携について検討する。

ウ トップアスリートへの応援（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

■成果

- ・ 盛岡広域8市町ゆかりのオリンピック選手は2016年リオデジャネイロオリンピック、東京2020オリンピック、北京2022冬季オリンピックに続き、パリ2024オリンピックでも4名が代表に選出され、パリパラリンピックでも1名が代表に選出された。
- ・ 地域スポーツ雑誌「Standard」³へのエイト・オリンピックズ・プロジェクト⁴記事掲載は、令和5年度は休止していたが、令和6年度には記事掲載を再開し、一般の読者に関心を持ってもらう手段として有効であった。選手本人はもちろんのこと、地元から応援してもらっているということで選手の所属先からも大変好評であった。



(Standard 臨時増刊号)

³ 岩手スポーツマガジン Standard 編集部が作成するスポーツ雑誌。

⁴ 盛岡広域のゆかりの選手等に対して盛岡広域が一体となって応援していくことを目的としたプロジェクト。コミッションでは、Standard に「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」を掲載していた。

- ・ お祝いメッセージの送付については、盛岡広域から全国や世界で活躍する選手が増えており、大変喜ばしく、複数の送付実績があった。

	目標値 (令和7年度)	R5	R6
エイト・オリンピックズ人数	40人	36人	36人

■課題

- ・ 現在、引退した選手もエイト・オリンピックズに含まれているため、選手一覧の精査が必要である。
- ・ 応援メッセージの受付については、令和6年9月からメールでの募集を開始し、コミッションWEBサイトで周知を行ったが、実績は無い。周知方法やメッセージの受付方法について検討が必要である。
- ・ お祝い状の送付やエイト・オリンピックズの情報について、事務局では、新聞等で盛岡広域ゆかりの選手の活躍について、情報収集に努めているが、把握できない部分がある。各市町からも積極的な情報提供をお願いしたい。

(3) 広域的なスポーツツーリズム推進

ア 広域的スポーツ施設整備の促進

■成果

- ・ 「盛岡広域圏のスポーツ施設におけるストック適正化指針」⁵（以下「ストック適正化指針」という。）に基づき、各市町において施設の修繕・整備状況を把握した。

■課題

- ・ スtock適正化指針の本来の目的は、盛岡広域でスポーツ施設を補完し合い、大規模大会や合宿を誘致するということであったが、各市町で進めている施設新設・建替え・修繕について、コミッションの意見を投じるのは正直厳しいと考える。令和8年度にストック適正化指針の中間見直しを控えているが、各市町の施設データの更新を行い、合宿相談会等で使いやすい資料とする。
- ・ 県が保有するスポーツ施設については、8市町の施設と共に合宿等に有効活用する方向で県や指定管理者などの関係機関と連携を図っていく必要がある。

イ スポーツツーリズム商品開発に関する調査・研究

■成果

- ・ 盛岡市として(株)Another works と連携協定を締結し、「複業クラウド for Public」⁶を活用して、事業企画アドバイザーとマーケティングアドバイザーを委嘱し、盛岡広域圏のアウトドアスポーツを活かしたツアーのモデルプランを作成し、プレスリリースを実施したほか、コミッションWEBサイトでも紹介を行った。

⁵ 盛岡広域のスポーツ施設の共有化・適正配置について、平成29年度に住民意識調査、令和2年度に施設利用者へのアンケート及び施設への聞き取り調査を行い、令和4年2月に策定した。

⁶ (株)Anotherworks が運営する自治体と副業人材を結ぶマッチングプラットフォーム。

《夏プラン ～SUP をメインとしたアクティビティ～》



《冬プラン ～スノーシューハイキングをメインとしたアクティビティ～》



(夏・冬ともに川崎駅を起点としたモデルコース)

■課題

- このプランを商品化し販売するためには、モニターツアーの実施や専門業者（旅行業）の協力が必要となり経費が発生する。

ウ スポーツツーリズム推進にかかる調査・研究

- ・ コミッションの取組を効果的に進めるために「第2回住民意識調査」を実施することとしていたが、第1回住民意識調査をお願いした岩手大学へ委託するのが難しく、民間に委託しようとするに100万円近い費用がかかること、また前回の調査の際にお世話になった浅沼道成氏に今回の調査は、必要性について疑義が生じるという御意見もいただいたことから、幹事会で検討した結果、調査を見送ることとしたが、反対意見はなかった。

第3章 基本的施策

第二次計画の計画期間と成果及び課題を踏まえ、次のとおり施策を再編する。

1 スローガン（継続）

スポーツの力が盛岡広域圏の未来を創る

2 基本的施策

(1) スポーツによる交流人口の拡大

- ア 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致
- イ 構成団体が行うイベントへの支援
- ウ スポーツパル制度の拡充

(2) 地域スポーツの魅力向上

- ア 各種媒体を活用した効果的な情報発信
- イ プロスポーツ等との連携・支援
- ウ トップアスリートへの応援（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

(3) 広域的なスポーツツーリズム推進

- ア 広域的スポーツ施設活用の促進
- イ 盛岡広域圏の資源を生かしたスポーツツーリズムの推進
- ウ 盛岡広域スポーツコミッションの在り方の検討

スポーツの力が 盛岡広域圏の未来を創る

盛岡広域圏のさらなる魅力の発信と賑わいの創出

盛岡広域スポーツコミッションの取組

スポーツによる 交流人口の拡大

- ・全国大会等の大規模大会・合宿の誘致
- ・構成団体が行うイベントへの支援
- ・スポーツパル制度の拡充

地域スポーツの 魅力向上

- ・各種媒体を活用した効果的な情報発信
- ・プロスポーツ等との連携・支援
- ・トップアスリートへの応援
（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

広域的なスポーツ ツーリズム推進

- ・広域的スポーツ施設活用の促進
- ・盛岡広域圏の資源を生かしたスポーツツーリズムの推進
- ・盛岡広域スポーツコミッションの在り方の検討

第4章 施策の展開

第3章で示した計画の体系に基づき、以下に掲げる内容の事業を展開する。また、本計画の進捗管理には、現状を把握するための指標として「成果指標」を設定する。

1 スポーツによる交流人口の拡大

大規模スポーツイベント、プロスポーツの試合等の観戦型のスポーツイベント、マラソン大会等の参加型のスポーツイベント等の開催によりスポーツ観光客が増加することは、飲食・交通・宿泊・小売など観光関連産業の拡大に寄与し、地域経済の活性化につながるものである。また、東京2020オリンピックにおける広域的な事前キャンプ実施のレガシーを生かした合宿、きたぎんボールパークで開催されている「いわて盛岡サマーベースボールリーグ」を中心とした広域圏での野球の合宿誘致など、スポーツ施設を利用したスポーツ大会・スポーツ合宿の誘致により、さらなる交流人口の拡大を図る。

ア 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致

スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致に向けて、各構成団体の人脈・交渉ルートから得た情報を共有するとともに、コミッションが競技団体等から得た情報を共有し、より効果的な誘致活動に取り組む。

■具体的な内容

- ・大会・合宿の誘致に関する情報の共有
- ・各市町で行われている大会・合宿に関する情報共有
- ・合宿相談会への参加
- ・合宿に訪れた団体へのニーズ調査

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
大会・合宿誘致件数※	132件	212件	212件

※目標値はみちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業と同じ

イ 構成団体が行うイベントへの支援

これまでも各市町が開催しているマラソン大会等のスポーツイベントを更に盛り上げるため、広域圏の資源を活かした支援を行い、賑わいの創出と魅力の発信によるさらなる交流人口の拡大を図る。

■具体的な内容

- ・イベントの後援・共催
- ・特産品セットの提供

特産品セットについては、現在の物価に見合った価格に改定し、より魅力発信につながる内容を検討する。

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
特産品提供イベント数	15 件	22 件	25 件

ウ スポーツパル制度の拡充

スポーツに親しみ、スポーツを支える住民のネットワークをつくり、地域住民がスポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進するための取組である「スポーツパル制度」の周知と内容の充実に取組み、さらに会員の拡大を図る。

■具体的な内容

- ・ 県営施設、民間施設を中心とした対象施設の拡大
- ・ 会員特典の充実
- ・ 会員募集を兼ねた交流会の実施
- ・ 電子会員証の普及拡大と完全移行
- ・ P R の強化

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
対象施設数	82 施設	84 施設	90 施設
スポーツパル会員数※	1,952 人	3,502 人	5,000 人

※目標値はみちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業と同様

2 地域スポーツの魅力向上

広域圏ゆかりの選手の活躍を知ることや、プロスポーツ等への応援、イベントの盛り上げには情報発信が不可欠である。スポーツで地域を活性化していくために、コミッションとしての魅力的な情報発信のほか、選手や関係者、住民との双方向での情報のやり取りが可能となる取組を推進する。

ア 各種媒体を活用した効果的な情報発信

広域圏のスポーツ施設やスポーツイベント情報を集約し、広域圏のスポーツに関するあらゆる情報を、多様な媒体を用いて積極的に PR し、国内はもとより、海外からのスポーツ合宿やスポーツイベントの誘致につなげる。また、広域圏のスポーツに関する情報を発信することにより、地域住民のシビックプライドの醸成につなげる。

■具体的な内容

- ・ ウェブサイト、メールマガジン、ラジオ、facebook、instagram、Standard などによる情報発信
- ・ 各市町によるメールマガジンの配信

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
SNSのフォロワー数	—	282人	1,000人

イ プロスポーツ等との連携・支援

広域圏をホームタウンとするプロスポーツチーム等が全国や国際舞台で活躍することは、多くの住民に感動を与えるとともに、スポーツへの関心の高まりや競技人口の拡大、競技力の向上等、地域スポーツの推進に大きな影響を与え、他の自治体でもプロスポーツがまちの賑わい創出や地域の一体感の醸成に寄与する事例が多くある。引き続き、岩手で活動している「岩手ビッグブルズ」や「いわてグルージャ盛岡」、「日本製鉄釜石シーウェイブス」など、地域のスポーツ資源であるプロスポーツチーム等への支援を通じて連携を図り、地域の活性化に取り組む。

■具体的な内容

- ・スポーツパルを活用したボランティア募集、イベント関連の情報発信

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
イベントボランティア参加数	279人	51人	100人

ウ トップアスリートへの応援（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

広域圏からのオリンピック選手輩出を目指す「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」に継続して取組み、地元オリンピック選手を盛岡広域住民が一体となって応援する機運を醸成する。

■具体的な内容

- ・コミッションウェブサイト上への応援メッセージフォーム設置による、広域圏ゆかりの選手応援の機運醸成
- ・各市町ゆかりのアスリートの情報収集
- ・お祝いメッセージの送付
- ・ウェブサイト、ラジオ、Standardへの掲載による選手に関する情報発信
- ・エイト・オリンピックズページの情報の更新

■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
エイト・オリンピックズ人数	34人	35人	40人

3 広域的なスポーツツーリズム推進

令和4年2月に策定した「ストック適正化指針」では各市町が保有する施設の情報のデータベース化とスポーツツーリズム施設等への今後望まれる機能について、認識を共有することができた。この指針を踏まえ、スポーツツーリズム施設の活用について検討する。

また、スポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取組が全国で進められており、競技スポーツにとどまらないスポーツツーリズムが推進されている。コミッションとしてもこれまで培ったスポーツツーリズムの基盤を生かし、さらなる広域的なスポーツツーリズムの推進に取り組む。

このほか、国が定める第2期「スポーツ基本計画」では、2021年度末までに、全国の地域スポーツコミッションの設置数を170にまで拡大することを目標として掲げていたが、2024年10月段階で、全国に205の地域スポーツコミッションが確認されている。第3期「スポーツ基本計画」では、「地域スポーツコミッションの更なる「質の向上」が求められていることから、当コミッションにおいても今後の活動の方向性について、改めて検討していく必要がある。

ア 広域的スポーツ施設活用の促進

「ストック適正化指針」に基づき、広域的視点に立ったスポーツ施設の活用に取り組む

■具体的な内容

- ・各市町が保有するスポーツ施設の状況確認
- ・県営のスポーツ施設の情報の把握、合宿や大会誘致の際の県営施設の活用

イ 盛岡広域圏の資源を生かしたスポーツツーリズムの推進

岩手県では、岩手の自然を生かしたスポーツアクティビティを通じた交流人口の拡大による地域活性化を目指しており、盛岡広域振興局においては、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいる。盛岡広域にも、サイクリングやスキー等の多くのスポーツアクティビティが存在しており、それらを生かしたスポーツツーリズムの推進に取り組む。

■具体的な内容

- ・県が取り組むアウトドアツーリズム推進への協力
- ・各市町の資源を生かしたスポーツツーリズムの周知
- ・WEBサイトへの掲載方法の検討
- ・研修会の開催

ウ 盛岡広域スポーツコミッションの在り方の検討

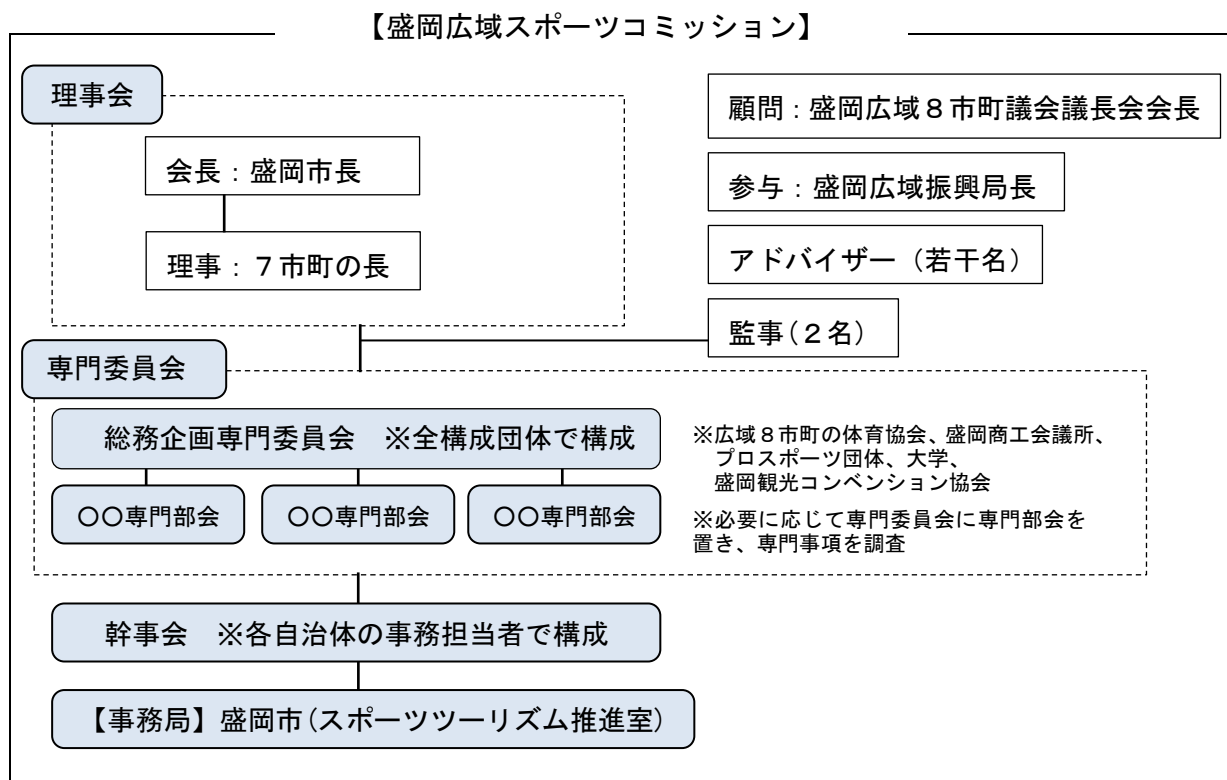
スポーツ庁では、地域スポーツコミッションの更なる「質の向上」のため、従前の地域外からの誘客を図る活動に加え、地域向け住民サービスの充実等の地域から求められる役割を果たすとともに、その経営の安全性を高める活動を推進することとしており、当コミッションにおいても、今後も盛岡広域における役割や運営方針など、求められる姿について改めて検討を行い、組織や活動内容の見直し等に着手していく。

■具体的な内容

- ・盛岡広域スポーツコミッション活動方針の見直し
- ・民間企業やスポーツチーム等への中間支援⁷の検討

⁷ 各般の取組の計画的・戦略的な推進のため、民間企業やスポーツチーム、行政機関、関係団体等の間に立ち、事業企画やコーディネート機能役を果たすこと。

第5章 推進体制



行政機関：県・市の施策との調整、合宿誘致交渉

スポーツ団体：地域スポーツの振興、競技力向上（アスリートの育成）

経済団体：スポーツによる交流人口の拡大、企業協賛支援

大学：大学レベルの大会・合宿の誘致、競技の普及・競技力向上に係る協力

観光団体：観光PRや宿泊情報の提供

資料編

1 近年オリンピックにおける地元オリンピック選手の輩出

2016 年リオデジャネイロ オリンピック	高橋英輝（陸上競技・競歩）
東京 2020 オリンピック	佐々木千鶴（射撃）、吉田健人（フェンシング）、水本圭治（カヌー）、 及川栞（ホッケー）、瀬川真帆（ホッケー）、田中海渡（ホッケー）、 高橋英輝（陸上競技・競歩）
北京 2022 オリンピック	小林陵侑（スキージャンプ）、小林潤志郎（スキージャンプ） 永井秀昭（ノルディック複合）、谷地宙（ノルディック複合） 小西あかね（アイスホッケー）、土屋正恵（クロスカントリースキー）
北京 2022 パラリンピック	狩野亮（アルペンスキー座位）、高橋幸平（アルペンスキー立位）、 阿部友里香（クロスカントリースキー立位）
パリ 2025 オリンピック	中野慎詞（自転車）、吉田健人（フェンシング）、及川栞（ホッケー）、 田中彩樹（ホッケー）
パリ 2025 パラリンピック	小野寺萌恵（陸上競技・100m(T-34＝車いす使用クラス))、 三浦生誠（自転車・タンデムスプリント）
ミラノ・コルティナ2026 オ リンピック	小林陵侑（スキージャンプ）、谷地宙（ノルディック複合） 土屋正恵（クロスカントリースキー）、吉田雪乃（スピードスケート）
ミラノ・コルティナ2026 パ ラリンピック	阿部友里香（ノルディックスキー距離「立位」）

2 地域スポーツ雑誌「Standard」掲載による選手の紹介

掲載号	掲載選手
平成 29 年（2017 年）5、6 月号	伊藤ふたば（スポーツクライミング）
平成 29 年（2017 年）7、8 月号	梅村錬（ボクシング）、石塚将也（空手道）
平成 29 年（2017 年）9、10 月号	中村楓（サッカー）、川崎清純（ラグビー）
平成 29 年（2017 年）11、12 月号	永井秀昭（スキー）、小西あかね（アイスホッケー） 佐藤洸彬（スケート）、村竹啓恒（スケート） 渡部知也（スケート）、阿部真衣（スケート）写真のみ
平成 30 年（2018 年）1、2 月号	小林潤志郎（スキー）、小林陵侑（スキー）
平成 30 年（2018 年）5、6 月号	平昌 2018 オリンピック出場選手 小林潤志郎（スキージャンプ）、小林陵侑（スキージャンプ）、永井秀昭（スキー・コンバインド）、小西あかね（アイスホッケー）
平成 30 年（2018 年）7、8 月号	エイトオリンピックアンズ名鑑
平成 30 年（2018 年）増刊号	藤原佑樹（スポーツクライミング・ルートセッター）

掲載号	掲載選手
平成 30 年（2018 年）9、10 月号	近村健太（カヌー）
平成 30 年（2018 年）11、12 月号	熊谷萌（スピードスケート）
平成 31 年（2019 年）3、4 月号	瀬川真帆、田中海渡、及川栞（ホッケー）
令和元年（2019 年）5、6 月号	中野慎詞（自転車）、石塚将也（空手）
令和元年（2019 年）7、8 月号	曾我こなみ（スピードスケート）
令和元年（2019 年）増刊号	藤沢沙也加（陸上）、山田美来（陸上）
令和元年（2019 年）11、12 月号	吉田起子（ハンドボール）
令和 2 年（2020 年）1、2 月号	川崎清純（7 人制ラグビー）
令和 2 年（2020 年）3、4 月号	梅村錬（ボクシング）
令和 2 年（2020 年）5、6 月号	苫米地賢司・美智子（カーリング）
令和 2 年（2020 年）7、8 月号	及川栞（ホッケー）、伊藤ふたば（スポーツクライミング）
令和 2 年（2020 年）臨時増刊号	スペシャルコラム（伊藤ふたば、及川栞）
令和 2 年（2020 年）9、10 月号	水本圭治（カヌー）
令和 3 年（2021 年）1、2 月号	岩舘直也、内記徹、小野幸一（不来方高校ホッケー部監督、男子ハンドボール部監督、カヌー部監督）
令和 3 年（2021 年）5、6 月号	植津悦典（盛岡工業高校スピードスケート部監督）
令和 3 年（2021 年）7、8 号	東京 2020 出場有力選手 佐々木千鶴(射撃)、吉田健人(フェンシング)、水本圭治(カヌー)、高橋英輝(陸上競技・競歩)、及川栞(ホッケー)、瀬川真帆(ホッケー)、田中海渡(ホッケー)、大石沙也加(陸上競技・短距離)
令和 3 年（2021 年）9、10 月号	吉田雪乃（スピードスケート）
令和 3 年（2021 年）11、12 月号	高村和人（クロスカントリースキー（視覚障害））
令和 4 年（2022 年）1、2 月号	小林潤志郎・小林諭果・小林陵侑・小林龍尚（スキージャンプ）、永井秀昭（ノルディック複合）、小西あかね（アイスホッケー）
令和 4 年（2022 年）5、6 月号	永井秀昭（ノルディック複合）
令和 6 年（2024 年）臨時増刊号	中野慎詞（自転車）、及川栞（ホッケー）、田中彩樹（ホッケー）
令和 7 年（2025 年）1、2 月号	松津秀太（ショートトラック）、佐々木虎（モーグル）
令和 8 年（2026 年）1、2 月号	吉田雪乃（スピードスケート）、土屋正恵（クロスカントリースキー）

3 ラジオを媒体とした盛岡広域スポーツ情報の発信

令和3年度	エフエム岩手 毎週金曜日 8:45～9:00		
	番組名「スポーツの力が未来を創る～盛岡広域圏の魅力発信～」		
		担当市町	放送日
	1	葛巻町	5月28日
	2	雫石町	6月4日
	3	矢巾町	6月11日
	4	八幡平市	6月18日
	5	滝沢市	6月25日
	6	岩手町	7月2日
	7	紫波町	7月9日
	8	盛岡市	7月16日
令和4年度	IBC ラジオ 毎月第2・4木曜日 8:45～8:52		
	番組名「スポーツの力が未来を創る」		
		担当市町	放送日
	1	事務局	4月14日
	2	岩手町	4月28日
	3	葛巻町	5月12日
	4	いわてグルージャ盛岡	5月26日
	5	盛岡市	6月9日
	6	八幡平市	6月23日
	7	雫石町	7月14日
	8	滝沢市	7月28日
	9	矢巾町	8月11日
	10	紫波町	8月25日
	11	岩手ビッグブルズ	9月8日
	12	盛岡市	9月22日

4 研修会

平成 29 年度	「希望郷いわて国体・大会から東京 2020、そしてその先の未来へ～盛岡広域スポーツコミッションに期待すること～」 (公財) 岩手県体育協会副会長兼理事長 平藤 淳 氏
平成 30 年度	第一部：講演 「ラグビーワールドカップ2019™の成功と釜石シーウェイブスRFCの未来」 釜石シーウェイブスRFCゼネラルマネージャー 桜庭吉彦 氏 第二部：報告「ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けて」 岩手県文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進室 総務企画担当課長 松崎雄一 氏
令和元年度	第一部：講演「みんなで東京 2020 を盛り上げよう」 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会国際局長 村里敏彰 氏 第二部：講演・グループワーク 「輝くボランティア～力を引き出すコーディネート～」 SUSPON ごみゼロ部会/NPO iPledge (アイプレッジ) ボランティアコーディネーター 山口記世 氏
令和 2 年度	「伝わる！効果的な SNS の使い方」 内閣官房 内閣広報室・IT 広報アドバイザー 石谷匡希 氏 (オンライン併用)
令和 3 年度	「東京オリンピック・パラリンピックを支える舞台裏」 岩手県立盛岡第三高等学校 塚田美和子 教諭 (東京 2020 オリンピック陸上競技でアナウンスを担当)
令和 4 年度	「スポーツ合宿地に選ばれるために」 (株) J ヴィレッジ 取締役 溝口文博 氏
令和 5 年度	「企画・広報のコツが分かる“心をつかむ”事業・イベントの作りかた」 第一部「事業の企画×ブランディングセミナー 入門編」 C-OILING 合同会社 代表 大後 裕子 氏 第二部「『伝わる』を生み出す！広報・PRのコツ」 フリーランス 山崎 薫子 氏
令和 6 年度	「デザインのコツを学ぶ」～デザインのコツを学んでチラシ作りを体験しよう！～ グラフィックデザイナー 片山 小百合 氏
令和 7 年度	「令和 7 年度スポーツボランティア研修会」 EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 神野 幹也 氏 第一部 スポーツボランティアの基礎と心構え 第二部 スポーツイベントを支えるボランティアとの連携 ※いわてスポーツコミッション、いわてスポーツプラットフォームと共同開催

5 スポーツパル交流会

平成 28 年度	第 1 回盛岡市スポーツパル会員交流会 ・日時 平成 29 年（2017 年）3 月 8 日（水） ・場所 プラザおでって 3 階大会議室 ・内容 会員の活動報告、グルージャ盛岡・岩手ビッグブルズ選手との交流 ・参加者数 30 名
平成 29 年度	第 2 回盛岡市スポーツパル交流会（カーリング交流会） ・日時 平成 30 年（2018 年）2 月 22 日（木） ・場所 みちのくコカ・コーラボトリングリンク ・内容 講習会（基本的なルール、氷上での滑り方、ストーンの投げ方、ブラシの使い方など）、ミニゲーム ・参加者数 26 名
平成 30 年度	第 3 回スポーツパル交流会（地元プロスポーツをみんなで応援しよう！） ・日時 平成 31 年（2019 年）3 月 24 日（日） ・場所 いわぎんスタジアム ・内容 試合ボランティア、観戦、いわてグルージャ盛岡選手と写真撮影 ・参加者数 8 名
令和元年度	第 4 回スポーツパル交流会（いわスタを楽しもう！） ・日時 令和元年（2019 年）9 月 7 日（土） ・場所 いわぎんスタジアム ・内容 施設見学、ラグビー教室見学、ラグビーカナダ女子選手との交流、親善試合ボランティア ・参加者数 9 名
令和 2 年度	第 5 回スポーツパル交流会（岩山散策路） ・日時 令和 2 年（2020 年）11 月 7 日（土） ・内容 もりおか近郊自然歩道（岩山コース）の散策 ・参加者数 13 名
令和 3 年度	第 6 回スポーツパル交流会（ボッチャをやってみよう！） ・日時 令和 4 年（2022 年）1 月 29 日（土） ・場所 ふれあいランド岩手 体育館 ・内容 ボッチャ研修・体験、ボッチャ試合 ・参加者数 7 名※盛岡市スポーツ推進委員を除く
令和 4 年度	第 7 回スポーツパル交流会（完成間近の新野球場見学ツアー！） ・日時 令和 5 年（2023 年）3 月 21 日（火・祝） ・場所 きたぎんボールパーク、いわぎんスタジアム ・内容 きたぎんボールパーク見学 ・参加者数 30 名
令和 5 年度	第 8 回スポーツパル交流会（モルック体験会） ・日時 令和 6 年（2024 年）3 月 10 日（日） ・場所 いわぎんスタジアム ウォーミングアップ室 ・内容 モルックの講習会・体験

	・参加人数 15 名
令和 6 年度	第 9 回スポーツパル交流会（ピックルボール体験会） ・日時 令和 7 年（2025 年）3 月 15 日（土） ・場所 盛岡体育館 ・内容 ピックルボールの講習会・体験 ・参加人数 30 名

6 第 1 回住民意識調査

【調査名】盛岡広域圏のスポーツ施策に関するアンケート調査

【調査期間】平成 29 年（2017 年）9 月 29 日から 10 月 20 日まで

【調査方法】住民基本台帳から無作為で抽出された満 20 歳以上の盛岡広域 8 市町の住民

【調査内容】

- ・ 1 年間にスポーツや健康を意識した運動の状況
- ・ スポーツに対する考え方
- ・ スポーツ施設について
- ・ スポーツイベントについて
- ・ スポーツを通じた地域の活性化への取組み

【回収結果】 1,172 人 （有効回答数 1,168 人 有効回収率 38.9%）

調査結果の概要と今後の方向性

1 年間にスポーツや健康を意識した運動の状況

【調査結果の概要】

- ・ 調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。
- ・ 全体の約 70%の住民が、何らかのスポーツや運動を実施しています。また、全体の 54.8%の住民が定期的(週 1 回以上)実施しています。
- ・ 実施していない理由では、「時間がない」が 53.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれて「健康・体力に自信がない」が増えています。

【今後の方向性】

- ・ 各世代のライフスタイルにおいて、空き時間でも簡単にできる運動強度の低い運動や体操などを提案・情報発信することで、運動実施に対するハードルを下げる必要があります。
- ・ 「健康・体力に自信がない」から運動できないという高齢者の割合を減少させるためには、高齢世代の健康維持・体力維持のためのプログラムの充実等が必要と考えます。

スポーツに対する考え方

【調査結果の概要】

- ・ 調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。
- ・ 全体の約 90%以上の住民が、スポーツに何らかの形で興味関心を持っています。
- ・ 「することが好き」よりも「観ることが好き」の割合が上回っています。
- ・ 年代別の特徴としては、30 代で「することが好き」が突出して高く、50 代では「観ることが好き」の比率が高くなっており、子どもの年齢との関係性が深いと考えられます。

【今後の方向性】

・「観る」の具体的な内容の確認が必要ですが、「身近な大会の観戦環境を整備する」、「プロスポーツや国際大会など地元でレベルの高いゲームを楽しむ機会を拡大する」の両面を視野に入れ、施策を進めることが必要と考えます。

スポーツ施設について

【調査結果の概要】

・新設又は大規模改修が求められるスポーツ施設について、地域によって大きな差異がありました。

【今後の方向性】

・限られた財源の中で、各自治体がいかに効率的に住民ニーズに応えられるかの判断とともに、スポーツ施設を広域内で共有する仕組みやスポーツ施設の適正配置による効率的なスポーツ環境の整備のあり方の検討が必要と考えます。

スポーツイベントについて

【調査結果の概要】

・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。

・希望郷いわて国体・いわて大会への参加状況については、約3人に1人が国体に関わっていました。

・地元プロスポーツに対する期待については、「チームの活躍によるスポーツ意欲の向上」「地域の競技レベルの向上」「青少年への健全育成・実技指導」に期待する傾向が多くみられました。また、高齢者は「教育的な価値」、若い世代は「地域経済の活性化」に期待する傾向がみられました。

・東京オリンピック・パラリンピックに対する期待については、「スポーツに対する関心の高まり」「地元からのオリンピック出場選手の輩出」が高い期待となっており、特に年齢が上がるにつれて期待度が上がる傾向がみられました。

【今後の方向性】

・盛岡市が導入しているスポーツパルの仕組みを広域自治体に拡大し、スポーツボランティアに関する情報発信力の強化が必要と考えます。

・地元プロスポーツチームのホームゲームの運営支援や、チームによる実技指導等の地域貢献活動機会の場づくりが必要と考えます。

・地元からの東京オリンピック出場選手の輩出は、オリンピックを応援する大きな機会となり、オリンピックをより身近に実感できることから、「エイト・オリンピアンズ・プロジェクト」のさらなる推進を図り、住民に対するオリンピック開催の機運醸成が必要と考えます。

スポーツを通じた地域の活性化への取組み

【調査結果の概要】

・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。

・「8市町が連携した効率的なスポーツ施設の整備（スポーツの場づくり）」「スポーツに親しむきっかけづくり（講座・教育の充実）」「地域の競技力の向上や有望選手への支援」「プロスポーツなど高レベルな試合（プロ野球など）の開催」が地域活性化を図るために必要と考える傾向がみられました。

【今後の方向性】

- ・スポーツを通じた地域活性化には、第一に、住民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる環境づくりが必要不可欠と考えます。
- ・プロスポーツやスポーツイベント等の誘致・受入れの取組みを通じて、地域経済への波及や盛岡広域の知名度向上等の効果を生み出し、住民が自身の市町に誇りと愛着が持てるよう、盛岡広域の魅力のPR強化が必要と考えます。